

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2008

課題番号：19530340

研究課題名（和文） 企業人キャリア開発における MBA 教育の影響に関する実証的研究

研究課題名（英文） The Impact of Harvard MBA Education on Career Development of Japanese Business Professionals

研究代表者

三石 誠司（MITSUISHI SEIJI）

宮城大学・食産業学部フードビジネス学科・教授

研究者番号：10438096

研究成果の概要：

15名の異なるハーバード MBA 取得者のほぼ全員が MBA 教育を自らのキャリア開発において一定の有効性を認めているが、その内容・程度は、個々人の生き立ち、経歴、そして人生観によりかなり異なっている。インタビューを通じ、「最も競争の激しい環境に自分を置き、そこで生き抜いていく意味がある」という視点から、「ハーバードの卒業生だから、こうならなければならないというプライドで、自分自身を縛ってしまうことの方が人生にはネガティブに作用する」といった、今後 MBA を目指す若手に対しても極めて有益と思われる多くの示唆を得ることができた。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	600,000	180,000	780,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,100,000	330,000	1,430,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・経営学・経営管理

キーワード：キャリア開発、MBA、ハーバード、ケース・メソッド、企業派遣留学

1. 研究開始当初の背景

MBA 教育は本当に有効かどうか。とくに、世界の最高峰であるハーバードの MBA 教育については一般論としてはよく知られているが、卒業生のその後のキャリアについては、一部の企業人を除き、余り知られていない。

MBA 取得後に、個々人がどのような人生を歩んだかについても体系的に調査した研究はわが国ではほとんど見られない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、1994 年度にハーバード・ビジネス・スクールを卒業した日本人留学生約 15 名について、卒業後 15 年間に彼らが歩んだキャリアおよび、彼らのキャリア形成において MBA 教育が与えた影響を定性的に明らかにしようとするものである。

3. 研究の方法

同年後の卒業生約 15 名について、約 2 年をかけた個別にインタビュー調査を実施した。

4. 研究成果

最終的に 15 名（研究者本人も含む）について、MBA 取得後 15 年間のキャリアと、基本的な考え方、MBA 教育の影響および今後の展望に関するヒアリング調査を実施した。これらを通じ、個々人の人生観だけでなく、今後 MBA を目指す若手に対しても、様々な示唆に富んだ助言が得られたものと思う。

以下に彼らが MBA 教育を通じて得たいいくつかの教訓をコメントの形で示す。

- ・ 「マネジメントとは人生観であると確信できた。」
- ・ 「何かを作って、それが良い意味で社会を変えることができれば良い。」
- ・ 「資本主義の本質はオーナーシップ。」
- ・ 「一緒に仕事をすれば、その相手と友人にならないわけがない。」
- ・ 「子供は自分の好きな道を歩んでほしい。本当にそう思う・・・」
- ・ 「1 を千にするような仕事よりも、マイナスをゼロに、あるいはゼロを 1 にするような仕事、そして、組織や人をインスパイヤするような仕事をしたい。」
- ・ 「一言で言えば、人の気持ちがわかること。相手が不快に思わないような仕事をしていきたい。」
- ・ 「(転職の決意?) 幅の広い川を大きく飛び越える気合いのようなもの・・・」
- ・ 「雑誌で人を見るって意外とありますよね。」
- ・ 「最も、競争の激しい環境に自分を置いて、そこで生き残ってこそ・・・」
- ・ 「外資で仕事をするということの意味を、今後、自分自身でしっかりと考えていきたい。」
- ・ 「ハーバードの卒業生だから、こうでなければならないという下手なプライドで自分自身を縛ってしまうことの方が、人生にはネガティブに作用する。」
- ・ 「人・自然・社会、これら全てを自分でコントロールできているアングロ・サクソンの生き方は、極めて傲慢だと思いませんか?」

これらを通じて発せられているメッセージは明らかである。ハーバードの MBA 取得者達も卒業後の 15 年間に各々の立場で、そして職場で精一杯、周りの目と、自ら設定したハードルを乗り越えるべくもがき続けてきたということである。

上記のコメントは、15 年間の闘いの結果であり、いわばビジネスの最前線で走り続けてきた彼らのナマの声である。

一人ひとりのコメントの背景には、個々人の生い立ち、経歴、そしてハーバードで何を果たしたか、さらに卒業後の 15 年間の職場での

実体験が詰まっている。

様々な事情から 15 人中 3 名は実名の公表を辞退、1 名はインタビュー内容の活字化をも辞退している。人生同様、個々人のビジネスや家族関係その他全てにおいて、アップダウンはつきものであり、また、個々人のポリシーとしても個別具体的な名称を余り表に出したくないという人間もいるため、これは仕方のないことではないかと思う。

それでも、かつての同級生達は、全員が真摯にインタビューに応じてくれ、様々な示唆に富んだ、発言を残してくれた。

さらに、ビジネス・スクールという教育機関の性質上、仕方のないことではあるが、卒業後、疎遠になっていたかつての戦友達が、卒業後 15 年を経て、ハーバード MBA の 2 年間でどう総括していたかを確認する大変良い機会となったと思う。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 件)

[学会発表] (計 件)

[図書] (計 件)

[産業財産権]
出願状況 (計 件)

取得状況 (計 件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三石 誠司 (MITSUISHI SEIJI)

宮城大学・食産業学部フードビジネス学科・教授

研究者番号：10438096

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者